全校研究主題

「ありがとう」があふれる学校
―　発達段階に応じたキャリア教育の実践を通して　―

Ⅰ　主題設定の理由

１　本校及び幼児児童生徒の現状から

本校は平成 20 年度の統合により４つの障がい種（病弱、聴覚障がい、肢体不自由、知的障がい）に対応する特別支援学校となった。平成 23 年度は、２校舎３分教室で 122 名の幼児児童生徒が学んでいた。平成 24 年度は、新校舎への移転が終了し、知的障がい高等部が設置され、新たなニーズに応えるための教育が求められている。このような幼児児童生徒の多様な実態を考慮しながら、教育目標の実現にむけて幼小学部から高等部までの発達段階を考慮した取り組みが必要である。

学校経営にあげられている目指す学校の姿は「『ありがとう』があふれる学校」である。重点には、「共生社会の担い手にふさわしい人を育てる教育」とあり、キャリア教育と復興教育を関連づけた指導を工夫し、有用感の向上と進路指導の充実を図ることが盛り込まれている。よってキャリア教育について共通理解を図り、自己有用感の形成と向上についての支援について考えていく必要があると考えた。

２　前回の研究成果から

「４障がい種に対応した特別支援教育の在り方に関する研究～教育課程編成システムの効果的な運用に関わって～」と主題を設定し、教育課程の評価と改善に取り組んだ。教育課程編成システムを構築し、学部と教育課程検討委員会の連携をとりながら検討を進めてきた。また、各学部では、障がい特性への配慮、合同学習の持ち方、自立活動、教科学習などについて授業改善を図り、幼児児童生徒の実態に応じた支援を行った。支援の際には、幼児児童生徒の主体的活動を引き出す試みがなされた。これに関して、更に支援の適切化を図るべく実践の積み重ねが必要であると考えた。

３　特別支援教育の動向から

特別支援教育の目的は、「障害による学習上又は生活上の困難を克服し、自立を図るために必要な知識技能を授けること（学校教育法第 72 条）」である。また、今回の特別支援学校学習指導要領等の改訂の基本的な考えとして挙げられているのが、「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の改善に準じた改善」「障害の重度・重複化、多様化に対応し、一人一人に応じた指導を一層充実」「自立と社会参加を推進するため、職業教育の充実」である。幼児児童生徒が、自らの障がいと社会の一員としての自己の存在を理解し、社会での職業や勤労及び学校の学習や諸活動に意欲的に参加できるよう幼児児童生徒の自立を促すための支援の充実が必要であると考えた。